

野球の独立リーグが厳しい状況に追い込まれている。リーグのガバナンス(統治)問題、さらにチームの赤字経営が重なり、チームの脱退が相次いでいる。その多くはスポンサー収入がない、チケット収入が伸びないなどの理由で、プロスポーツ界が抱えている問題と同じである。

そもそも野球の独立リーグは2004年に起きたプロ野球再編問題を機に全国に広まった。興行型、企業主体といった閉鎖的な日本の野球界において、普及や育成、地域の活性化を目的に掲げたその構想は大変素晴らしいものであった。し

SPORTS MUST CHANGE

谷塚 哲



かし、理想と現実がうまくかみ合っていない。三重のチームが四国・九州で活動することが、本当の意味で地域密着、地域の活性化につながるのだろうか？ その根本的な問題を解決しなければならぬ。

無理がある。

「公益」とは広く一般の者の利益であり、一定の者の利益(私益)ではない。独立リーグが普及や選手の育成、地域の活性化を目的とするならば、独立リーグの目的は公益である。なら

チームとも公益を目的とする公益法人格を取得して再スタートするべきである。そして、プロ野球のような興行的(スポンサー)なビジネスモデルではなく、あくまでも公益的なビジネスモデルへとシフトするべきで

ツの持つ公益性をさらに理解する必要がある。なぜならそれこそが地域密着への第一歩なのである。

日本のプロスポーツ組織が株式会社(営利組織)でなければならぬ明確な理由はない。むしろ企業主導で行われてきた日本のスポーツ界は今まではそんなことを考える必要はなかった。しかし、これからはそうとも言うていられない。「地域密着」を実現するために、まず、自らの目的にあった組織形態を考え直すことから始めよう。

(REGISTA有限責任事業組合代表)

地域密着を第一に

プロ野球の目的が「興行」であるのに対して、独立リーグの目的は「普及、選手の育成、そして地域の活性化」である。そもその目的が違ってもかわらず、プロ野球と同じ手法、同じ組織形態で行うこと自体に

ば、その運営手法や組織形態も公益であるべきではないだろうか。公益(非営利)を目的とするのに自らの組織形態が私益(営利)を目的とする組織では本来の目的は達成できない。

独立リーグはリーグ、チームとも公益を目的とする公益法人格を取得して再スタートするべきである。そして、プロ野球のような興行的(スポンサー)なビジネスモデルではなく、あくまでも公益的なビジネスモデルへとシフトするべきで